

鹿児島県における射場に関する取組と課題



令和 8 年 7 月 1 日
鹿児島県

H3ロケット試験機7号機 種子島宇宙センター

1 鹿児島県に立地する射場

- ・ 射場の概要
- ・ 打上げ実績と予定

2 射場に関する取組

- ・ ロケット打上げへの協力体制
- ・ インフラ整備等
- ・ ロケット打上げに係る気運醸成等
- ・ 宇宙ビジネス創出への取組
- ・ 次世代人材育成への取組
- ・ 地元自治体を中心とした取組

3 今後の課題と取組

- ・ 高頻度化に向けた射場の再整備等
- ・ 射場をハブとする新たな価値創造・地方創生

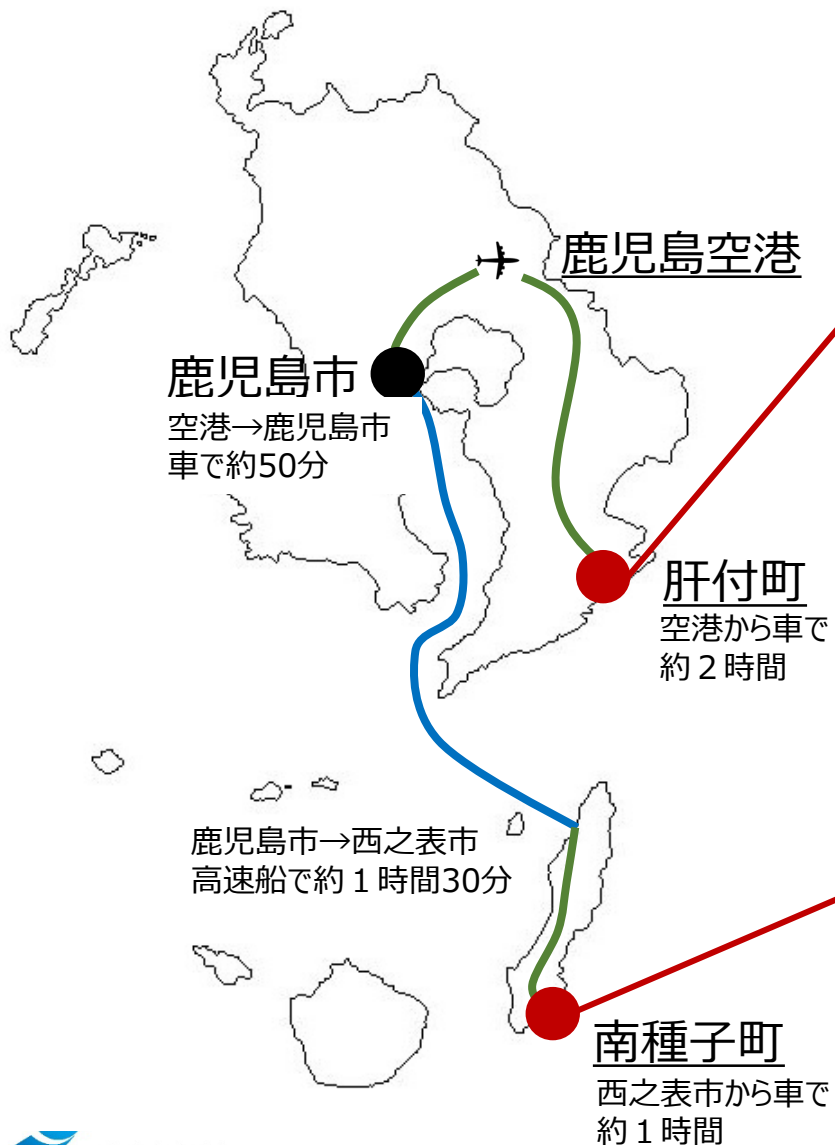


鹿児島県宇宙ビジネス創出推進研究会



イプシロンロケット6号機 内之浦宇宙空間観測所

1. 鹿児島県に立地する射場（射場の概要）



内之浦宇宙空間観測所

1962年開設。
これまでに大小400機を超えるロケットと、我が国、初の「おおすみ」を含む30機余りの人工衛星、探査機を打上げ実績あり。



© 肝付町観光協会

種子島宇宙センター

1969年開設。
日本最大のロケット発射場であり、日本の宇宙開発において人工衛星打上げの中心的な役割を担う。世界一美しいロケット発射場といわれている。



© K. P. V. B

1. 鹿児島県に立地する射場（打上げ実績と予定）

出典：JAXAホームページ等より作成

年度	内之浦宇宙空間観測所 (固定燃料ロケット)			計	種子島宇宙センター (液体燃料ロケット)		計
	観測ロケット	イプシロン	イプシロンS		H-IIA	H3	
R 8 (※)	1 機	—	1 機	2 機	—	7 機	7 機
R 7	1 機	—	—	1 機	1 機	2 機	3 機
R 6	1 機	—	—	1 機	1 機	3 機	4 機
R 5	1 機	—	—	1 機	2 機	1 機	3 機
R 4	2 機	1 機	—	3 機	1 機	1 機	2 機
R 3	1 機	1 機	—	2 機	2 機	—	2 機

※ 1 R8年度の計画は、現時点の計画であり、今後変更となる可能性がある。（宇宙基本計画工程表より抜粋）

※ 2 イプシロンSロケットは、2026年度の実証機打上げを目標とする開発計画を設定。

2. 射場に関する取組（ロケット打上げへの協力体制）

① 鹿児島県宇宙開発促進協議会

種子島・内之浦両打上げ施設の整備促進及び打上げ等への協力並びに航空宇宙関連産業等の立地促進等を図る。
（昭和62年設置）

- 会員（会長：知事）
県議会議員、関係市町、JAXA、経済団体、大学、マスコミ等
- 活動内容
 - ・ 国等への要望活動
 - ・ 県民への普及啓発活動
 - ・ 宇宙関連活動への支援 等



② 鹿児島県宇宙開発推進協力会

ロケットの打上げをはじめとする宇宙開発利用に係る業務が円滑に推進されるよう、関係機関が連携し協力。
（昭和41年設置）

- 会員（会長：副知事）
県議会議員、関係市町、漁業団体、交通事業者、マスコミ等
- 活動内容
JAXA、三菱重工業(株)からロケット打上げ結果や計画等の説明を受け、会員間で情報を共有し、連携して協力していくことを確認する。



③ 地域住民・漁業者の協力

打上げ時においては、内之浦宇宙空間観測所周辺の住民は警戒区域からの退避に協力しているほか、射場周辺海域で操業する漁業者は、JAXA等と確認書を取り交わし、海上警戒区域への立ち入り規制等に協力している。また、南種子町では、規制範囲内における農作業中断を協力いただいている。

こうした関係者の協力により、円滑な打上げが実施されているところ。

2. 射場に関する取組（インフラ整備等）

① ロケット輸送に係る対応

● 機体輸送に伴う橋補強

- ・ イプシロンロケットは、第1段モーターの固体燃料を種子島宇宙センターにおいて充填し、内之浦宇宙空間観測所に輸送している。
- ・ 経路上の2橋梁（宮瀬橋（種子島）、廣瀬橋（内之浦））は、燃料充填後のロケットの重量に対して強度が不足するため、**県が一時的な補強工事を実施**。



● 機体輸送に伴う道路補強

- ・ 機体輸送前に発生・判明した輸送道路のへこみや、大雨による路肩決壊に対し、**県が復旧工事を実施**。



● 樹木伐採等

- ・ 南種子町においては、ロケット輸送時に干渉する**樹木の伐採等を実施**。

② 打上げ見学環境の整備

- **地元住民や観光客向けの打上げ見学環境の整備**のため、恵美之江展望公園（南種子町）やIHIスペースポート内之浦（肝付町）の整備等を支援し、ロケット打上げ時に見学しやすい環境となるよう取り組んできたところ。

恵美之江展望公園（南種子町）©種子島観光協会



IHIスペースポート内之浦（肝付町）©肝付町観光案内所



2. 射場に関する取組（ロケット打上げに係る気運醸成等）

① かごしまスペースフェスタの開催（H27～）

青少年等を対象にした宇宙に関するイベントを開催

【令和7年度 実施内容】

- JAXA職員講演会
宇宙開発の現場に携わる方を講師に招き、講演会を開催
- 水ロケット体験教室
ペットボトルで作る水ロケットの製作・打上げを体験
- 展示・体験
JAXAや宇宙関連企業、大学等による展示・操作体験
- ワークショップ
JAXAや大学によるロケットに関するクイズやミニトーク会を実施



② ロケット打上げ時のパブリックビューイング

- ロケット打上げ時に県内各地でパブリックビューイングを実施。（県庁、県立博物館、商業施設等）
- 令和7年度は、JAXA職員をゲストに招き、来場者との交流や質問コーナーを実施。



③ 打上げ成功を祈るフラッグの掲示

打上げ時、市街地において成功祈願のフラッグを掲示



2. 射場に関する取組（宇宙ビジネス創出への取組）

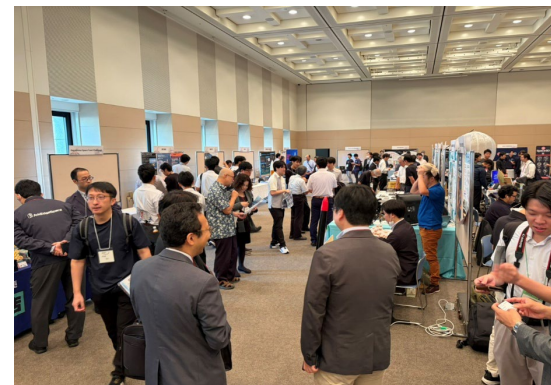
① 県宇宙ビジネス創出推進研究会の運営

宇宙ビジネスの創出を推進するため、産学官で連携した研究会を開催し、宇宙ビジネスの創出、種子島・内之浦両射場の活用促進等に関する情報交換を行うとともに、会員相互の連携した取組について、協議・検討を行う。



② ビジネスマッチングの支援

宇宙ビジネス関連の展示会等を活用し、県内企業と県外企業とのマッチングを支援する。



③ 研究開発・衛星データ利活用実証実験への支援

- 宇宙ビジネス研究開発支援事業補助金
宇宙機器の試験研究・試作開発、衛星データ画像の解析手法の研究・試行等に係る経費を補助
- 衛星データ利活用実証事業補助金
衛星データを活用し社会課題解決に資するビジネスモデルの構築を目指す実証事業に係る経費を補助

④ リモートセンシング研修

宇宙ビジネスに関心のある企業等を対象に、衛星データ解析に関するセミナーを実施。



2. 射場に関する取組（次世代人材育成への取組）

① 県立楠集中高一貫校における宇宙学特別講義

全国初となるJAXA公認の推進モデル校である、県立楠集中高一貫教育校において、JAXAや宇宙ビジネス企業、大学教授等による「シリーズ宇宙学」の講義を実施。

今年度より完全中高一貫教育へ移行したことを機に、内容を刷新。中学1年生から高校2年生までの5年間を通じて、宇宙を「感じる」「探る」「考える」「活かす」「究める」体系的なプログラムとして再構成。



提供：県立楠集中高一貫校

② 大学との連携

- 宇宙業界で活躍する人材を創出するため、県内大学等と県が連携した「かごしま宇宙ビジネス学生セミナー」を開催。
- 地元の鹿児島大学・第一工科大学と企業等で構成されるチームが行っている、**小型ハイブリットロケット開発を鹿児島県と南種子町が支援。**
- 肝付町において、鹿児島大学、千葉工業大学、九州工業大学、和歌山大学、第一工科大学と**宇宙人材の育成に係る包括的連携協定を締結。**



③ 日本宇宙少年団（YAC）への活動支援

- 県内の宇宙少年団分団を取りまとめる鹿児島地方本部を設置。
- 県内分団の質を高め、より活性化させるため、指導者の資質向上を目的としたセミナーへの参加支援等を実施。



2. 射場に関する取組（地元自治体を中心とした取組）

① 南種子町

<人材育成の取組>

- 種子島ロケットコンテスト（主な参加者：高専・大学生等）
 - ・ 手作りのモデルロケットや衛星機能モデルを開発・製作し、打上げること物作りの奥深さ、面白さを体験。
 - ・ 宇宙開発利用の普及啓発や地域活性化を図る。



- 宇宙学校プロジェクト

- ・ 一般社団法人e-kagaku国際科学教育協会、株式会社JOINXと包括連携協定を締結し、宇宙のまちからデジタル人材をテーマに、「宇宙サイエンスキャンプ」を実施。
- ・ 月面に見立てたフィールドを走行する自走型ロボットを制作し、プログラミングを駆使して操作するほか、四足歩行ロボットの操作体験や成果発表などを行う。

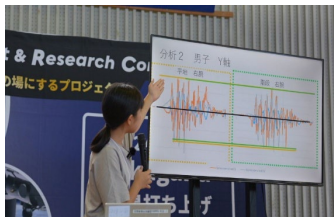


<今後の取組に向けた検討>

- 宇宙港構想に関する共同研究（R7～）

（町、JAXA、京都工芸繊維大学、中央大学の4者）

- ・ 打上げ高頻度化等を踏まえ、町や種子島全体との共存のあり方や、宇宙港構想の立案及び社会実装プロセスの検討を開始。
- ・ 現在、国内視察や町民向けワークショップ、ステークホルダー分析を行っている。



宇宙に「触れる」、宇宙を「学ぶ」、宇宙に関して「共創する」をテーマに、「SPACE TOWN南種子」として宇宙のまちづくりを推進

② 肝付町

<人材育成の取組>

- 宇宙甲子園ロケット部門鹿児島大会（主な参加者：中高生等）

- ・ 青少年がロケット製作と打上げを通じて科学技術への理解と関心を深め、次世代の宇宙人材を育成する。
- ・ 実践的な学びの場を提供し、安全で教育的価値の高い競技を通じて、宇宙への夢と探究心を育む機会とする。



<今後の取組に向けた検討>

- 内之浦射場活用研究会による検討・要望（R元～）
（オール九州による宇宙開発促進に向けた既存射場の活用研究会）



- ・ 産官学金によるオール九州の連携体制により、ロケットの在り方に関する国の検討内容を踏まえ、内之浦射場等を活用した宇宙産業振興を図る。



南種子町マスコットキャラクター 宙太くん



肝付町マスコットキャラクター いて丸

3. 今後の課題と取組（高頻度化に向けた射場の再整備等）

国の計画・方針

- 2030年代前半までに**官民の打上げ能力を年間30件程度確保**する。（※宇宙基本計画）
- **海外衛星の打上げ需要を取り込む**べく、（中略）官民一体となった取組を進める。
加えて、基幹ロケットの射場及び試験設備の適切な維持・管理に向けて、**老朽化対策等の必要な措置を実施**するとともに、**打上げの高頻度化に向けた射場の在り方についての検討と取組**を継続的・計画的に進める。（※宇宙基本計画工程表）
- 宇宙活動の自律性を確保するため、**人工衛星やロケットの部品の生産基盤を構築**する。

（※「強い経済」を実現する総合経済対策）



取組を進める上での地域課題

- 県内両射場からの打上げは、直近の5年平均で年間4機程度であり、**特に内之浦は1機程度にとどまっている。**
- 他方、打上げの高頻度化に伴い、ロケット輸送時の橋梁の補強等に係る**地元負担の増加が見込まれる。**
- ロケットの高頻度打上げを支える企業について、**射場周辺への集積が進んでいない。**

取組を推進するために求められる施策

- ① **打上げ高頻度化に向けた両射場の更なる活用及び、機能強化に向けた射場の再整備**
- ② **衛星の直接空輸を可能とするための種子島空港滑走路の延伸や、大型機材の輸送及び打上げの高頻度化に対応するためのアクセス道路の整備など、両打上げ施設周辺のインフラの整備充実**
- ③ **射場を核とした周辺地域への宇宙関連企業の誘致・育成**

3. 今後の課題と取組（射場をハブとする新たな価値創造・地方創生）

国の計画・方針

- 将来の宇宙分野の発展を支える次世代人材の育成等に関しては、（中略）**将来の宇宙航空分野の発展を支える、先端的かつ複雑化したプロジェクトをけん引できる次世代の人材育成への支援等を強化**する。
（※宇宙基本計画工程表）
- 宇宙港は、（中略）周辺における観光・教育・体験、研究・創薬・材料などの様々な産業集積によって、**新たな価値創造や地方創生を進める宇宙ビジネスのハブ拠点として期待**される。
（※宇宙技術戦略）



取組を進める上での地域課題

- 射場がハブ拠点として機能し、有効活用されるためには、**射場の民間利用の拡大**や、射場や射場周辺において企業や大学、JAXA等が**共同研究を行う施設の整備**が必要。
- **観光、教育・体験等の受入体制の整備**が必要。

取組を推進するために求められる施策

- ① 射場の**民間利用の拡大**及び**産学官の連携が図られる実証フィールドの整備**
- ② 学生等へ両射場の現場作業の見学機会を提供するなど、**技術・ノウハウの水平展開、施設の有効活用**
- ③ 射場立地を生かした**観光・教育等による地方創生・賑わい創出に寄与する取組**